

元宮例祭

駒ヶ岳の頂上にある箱根元宮神社は、「神の山」と訳される、近くの神山のご神体を祀っています。地元の人および巡礼者ともに、僧侶の万卷上人が箱根神社を創立したとされる紀元 757 年よりずっと前から箱根の山を崇拝してきました。はるか古代から駒ヶ岳には何らかの形の聖地が存在したと考えられ、箱根元宮をこの地域最古の神社と呼んで差し支えないでしょう。現在の建物は観光地としての箱根の発展に多大な役割を果たした実業家、堤康二郎（1889–1964）の主導により 1960 年代初期に建てられました。

例年 10 月 24 日に行われる元宮例祭は、1 回目の東京オリンピックの年の 1964 年以来開催されています。この祭は世界平和の祈願とともに山の神様に捧げる意図で行われています。元宮の神主は神聖な灯火を灯し、その後灯火は山頂からロープウェイで降ろされ、芦ノ湖の岸に沿ってボートで箱根神社まで運ばれます。夜通し絶えることなく灯された炎は、翌朝いくつかの小さな松明を灯すのに使われます。これらの灯火はそれから地域内のいくつかの他の神社に運ばれ、箱根中に平和の灯火が広められます。

